

宮城県女川町「シーパルピア女川」・仙台市泉区「泉パークタウン タピオ」 姉妹施設協定を締結

～復興支援をきっかけに生まれた絆 両エリアの発展へ～

女川みらい創造株式会社が運営するテナント型商店街「シーパルピア女川」（宮城県女川町）と三菱地所株式会社、三菱地所リテールマネジメント株式会社が運営する商業施設「泉パークタウン タピオ」（宮城県仙台市泉区）は、女川と仙台市泉区の泉パークタウンの双方向の交流を目的として2016年1月16日に「姉妹施設協定」を締結することをお知らせします。

三菱地所グループは東日本大震災被災地支援の一環として、女川町において被災商店の再建を目的にJR女川駅前に設立されたテナント型商店街「シーパルピア女川」の開業準備業務の支援を行ってまいりました。

女川町は東日本大震災により壊滅的な被害を受けましたが、2015年3月21日にはJR女川駅が開通し、同年12月23日には商業拠点として重要な役割を担う前述の「シーパルピア女川」が開業を迎える等、現在急速に復興事業が進んでおります。

一方、当社は仙台市泉区において1974年より約40年に亘り民間単独としては最大規模であるニュータウン開発事業「泉パークタウン」の開発を進めており、同エリアの集客施設集積エリアには商業施設「泉パークタウン タピオ」が所在しております。

復興支援をきっかけに生まれた女川町と当社の絆を女川と泉パークタウン、両エリアの一層の発展に繋げるべく、「シーパルピア女川」と「泉パークタウン タピオ」はこのたび姉妹施設協定を締結し、今後両施設で互いのエリアの情報発信や様々な交流活動を定期的に行っていくこととしました。

なお、両施設の交流の第一弾として、2016年1月16日、17日、「泉パークタウン タピオ」において姉妹施設協定締結式、及び女川町物産展を実施します。

<シーパルピア女川>



<泉パークタウン タピオ>



【2016年1月16日、17日のイベント概要について】

■姉妹施設協定締結式

日 時：2016年1月16日（土）10:30～

場 所：泉パークタウン タピオ 南館ノースコート

出席者：女川みらい創造株式会社 代表取締役社長 鈴木 敬幸
三菱地所株式会社 執行役員東北支店長 駒田 久
三菱地所リアルマネジメント株式会社 取締役社長 林 裕

■女川町物産展

日 時：2016年1月16日（土）10:00～18:00、17日（日）10:00～17:00

場 所：泉パークタウン タピオ 南館ノースコート

開催概要：女川の特産品を集めた販売コーナーと復興への軌跡等を展示する展示コーナーを設置予定。

主 催：女川みらい創造株式会社

協 力：女川町、女川町観光協会、復幸まちづくり女川合同会社、みなとまちセラミカ工房、絆フレンズ

【「泉パークタウン」及び「泉パークタウン タピオ」について】

■「泉パークタウン」

仙台市泉区にて三菱地所グループが推進している大規模開発事業。人と自然とがふれあいながら快適に暮らす、多彩な生活機能を備えた複合型の都市構築をテーマとし、1974年から分譲を開始、2014年にまちびらき40年を迎えた。

総計画面積約1,070haのタウン内には住宅をはじめ、商業施設、スポーツ・レクリエーション施設、緑あふれる公園、緑地などをバランスよく配置、現在では約26,000人・約10,000世帯が居住。

■「泉パークタウン タピオ」

「泉パークタウン」の集客施設集積エリアに所在する商業施設。2008年10月に隣接する仙台泉プレミアム・アウトレットと同時オープン。「パークタウン流・山の手ライフ」をコンセプトにちょっと贅沢な日常を提案する。店舗面積：約16,000㎡、店舗数：80店舗。

【「女川町」及び「シーパルピア女川町」について】

■女川町

宮城県の東端、太平洋に突き出た牡鹿半島の基部に位置する女川町は、北部・南部にかけて石巻市に幅広く隣接し、日本有数の漁港「女川漁港」がある港町である。水産業を基幹産業とし、銀鮭や牡蠣、ホタテなどの養殖が盛ん。また、金華山漁港が近いことから市場には暖流と寒流の豊かな魚種が水揚げされ、中でも秋の味覚「秋刀魚」の水揚げ量は全国でもトップクラスの業績を誇る。



▲女川町将来構想イメージ図

＜女川町の震災被害状況＞

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、女川町に甚大な被害をもたらした。災害廃棄物量は推定44万4000トン、これは町内の通常廃棄量の約115年分に及んだ。

最大津波高：14.8m（湾岸空港技術研究所調査）

死者572名（H26.7.23現在）

住家被害総数：4,411棟

■シーパルピア女川

震災で壊滅的な被害を受けた女川町中心部の駅周辺商業エリアに昨年12月23日、テナント型商店街「シーパルピア女川」と「女川町まちなか交流館」がグランドオープン。シーパルピア女川は、全国で初めて国のまちなか再生計画の認定を受けて整備された商業施設で、木造平屋建ての複合施設6棟で構成し、店舗数は計27店舗。JR女川駅前から海側に伸びるプロムナード沿いに面している。

【三菱地所グループと女川町の関わりについて】

■復興計画への支援

2013年8月1日、当社・女川町間で復興支援に関する協定書を締結。女川町が出席する定例会等に定期的に参加。その後、2014年9月よりJR女川駅前のテナント型商店街整備主体である女川みらい創造株式会社への支援を開始。月に1~2回程度現地における打ち合わせを重ね、商業施設運営・管理に関するアドバイスを実施。

■町内店舗の営業支援

当社が運営する三菱一号館美術館（東京都千代田区）併設のミュージアムショップ「Store 1894」にて、2015年12月5日より「NPO法人みなとまちセラミカ工房」が制作する「女川スペインタイル」を販売中。

【当社グループのその他復興支援に係る取組・業務について】

■泉パークタウン住民の方への食糧等支援物資の提供（宮城県仙台市泉区）

泉パークタウン町内会などに対して、支援物資（1万3千食以上の食糧や毛布・ランタンなど）の配布。

■三菱地所設計による、東日本大震災で被災した地域における各種業務

わたり温泉鳥の海設計監理業務、土地利用計画策定業務、防災公園実施設計業務 他（宮城県亶理町）

宮城県漁業協同組合 気仙沼地区支所・気仙沼総合支所の設計監理業務（宮城県気仙沼市）

防災まちづくり拠点施設の設計監理業務（宮城県松島町）

渡波地区保育所施設基本計画、複合文化施設基本構想・基本計画作成業務（宮城県石巻市）

中心市街地拠点施設の建設管理支援業務（岩手県宮古市） 他）

■三菱地所ホームによる、仮設住宅整備（15戸）（宮城県石巻市）

■「梅田復興公営住宅」（総戸数66戸）供給（宮城県仙台市青葉区）

東日本大震災により住居を失い自力での住宅再建が困難な被災者が、低廉な家賃で入居できる復興公営住宅を仙台市が整備する計画の一環として、三菱地所レジデンスが整備を実施、2015年3月11日に仙台市宛引渡し済。

■食ブランドの再生を通じた復興支援「Rebirth 東北フードプロジェクト」（第1弾~第8弾）

三菱地所グループの経営資源を活かし、東北エリアと丸の内シェフズクラブのシェフが連携。東北エリアの食材と伝統野菜を用いた新消費・新メニューの開発・紹介等を通じ、東北の食ブランドの再生を図る取り組み。第6~7弾では石巻・気仙沼のブランド食材を使ったオリジナル缶詰「はらくっつい TOHOKU」1st・2ndシリーズを開発。第8弾として、現在同3rdシリーズを開発中、2016年3月3日に東京・丸ビルにて商品発表会を開催予定。

■地域復興マッチング事業「結の場」への参加

復興庁宮城復興局・石巻商工会議所・気仙沼商工会議所が主催する「結の場」へ参加し、「泉パークタウンタピオ」において石巻・気仙沼両地域の水産加工業の復興を目的とした販売会、並びに三菱地所グループ運営管理施設テナント関係者等との個別商談会を開催。

■マッチングギフトによる被災者支援

社員に募った寄付に会社が一定比率上乗せした金額を寄付するマッチングギフトを実施。2012、13年度は、被災から立ち上がる事業者を応援する「セキュリテ被災地応援ファンド（引受・運営：ミュージックセキュリティーズ(株)、被災した子どもたちに学校外教育の機会を提供する「Chance for Children 東日本」への支援、14年度は、「Chance for Children 東日本」と、被災地ボランティアツアーで継続支援している盛屋水産の交流スペース「蔵カフェ」開設への支援を実施。

■三菱地所グループ社員有志による被災地ボランティアツアーの実施

宮城県内各地（仙台市内、石巻市、七ヶ浜町）において、グループ社員有志によるボランティア活動を実施。2012年度からは、気仙沼市唐桑町の牡蠣養殖業者「盛屋水産」を訪問し（今年度は13社31名参加）、地域コミュニティ活性化の為に交流スペース「蔵カフェ」の整備や工場清掃等を行い、現地の方々との交流会も開催。